

第 32 回日韓海峡沿岸市道県交流知事会議

日時：令和 6 年 12 月 7 日（土）13:00～16:30

場所：和多屋別荘 タワー館 1 階 孔雀

（1）開会

（司会）

定刻になりましたので、ただ今から、第 32 回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議を開催いたします。私は、本日の会議の進行役を務めます、佐賀県地域交流部国際政策グループの森岡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、お手元の冊子、7～8 ページの「詳細日程」に従って進行いたします。まず、開会にあたりまして、開催県であります佐賀県の南里隆副知事からご挨拶を申し上げます。

（佐賀県 南里副知事）

皆様、こんにちは。佐賀県副知事の南里隆でございます。日韓海峡沿岸の県市道の皆様、ようこそ佐賀県へいらっしゃいました。心から歓迎を申し上げます。

今回、直前に韓国で大きなニュースがあり、私たち日本側も大変心配しておりましたが、このように開催できますことを心よりうれしく思っています。日本と韓国は、未来へ共に歩いていく重要な隣国です。いかなる状況においても、地域と地域との交流を変わず積み重ねていくことが大切だと考えています。日韓海峡沿岸県市道交流知事会議では、これまで様々な分野で活発な議論を交わし、共同交流事業を実施してきました。日韓海峡沿岸 8 県市道の揺るぎない信頼関係を築き、日韓地域間交流の先導的な役割を果たしてきたと考えています。首長同士が一堂に会して行うこの会議で、今回は異例にはなりますが、知事及び市道の市長の思いを託された私たちが、これまで 32 年間切らすことなく開催されてきたこの会議を意義あるものにして、未来につないでいきたいと思えます。

今回の会議のテーマはスポーツです。佐賀県では今年 10 月、「SAGA2024 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」を開催しました。日本で 1946 年に始まった国民体育大会が、今年から国民スポーツ大会に名称が変わりました。この大会で佐賀県が掲げたスローガンは、「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを」です。スポーツには言葉の壁もなく、人と人をつなぐ力があります。する人だけでなく、観る人、また、支える人という、スポーツに関わる全ての人々が主役になることができます。また、その波及効果により経済的、文化的にも地域を活性化させる力があります。今回の大会では多くの人々に感動と共感を届け、スポーツの可能性を感じることができました。そのような「スポーツのチカラ」が私たちの結束を深めていくことを期待しています。

本日は、これまでにない新しい取組といたしまして、基調講演を用意いたしました。ご講演いただくのは片山善博先生です。片山先生は、1992 年にこの会議の第 1 回が開催された折、当時、自治省のご担当者としてその準備段階から立ち上げにご尽力を賜りました。

その後も日韓の交流に注力され、鳥取県知事、総務大臣をお務めになっっています。この会議は今回で5巡目を迎えました。また、来年、2025年は日韓国交正常化60周年を迎えます。この会議をはじめ日韓の地域間交流に長く携わってこられ、また、両国の地方自治にも精通された片山善博先生のお話を伺い、節目となる来年に向け活発な議論をし、実りある会議としてまいりたいと思います。

最後に、日韓海峡沿岸8県市道のますますのご発展と、本日まで出席の皆様のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

(2) 経過報告

(司会)

初めに、これまでの知事会議の経過につきまして、佐賀県地域交流部長の引馬誠也からご報告申し上げます。

(佐賀県 引馬部長)

それでは、これまでの経過報告を説明させていただきます。改めまして、佐賀県地域交流部長の引馬でございます。どうぞよろしくお願いたします。

日韓海峡沿岸県市道交流知事会議のこれまでの経過について、簡単にご報告させていただきます。お手元の資料、「日韓海峡沿岸県市道交流知事会議」という冊子の、3～6ページでございます「経過報告」をご覧くださいければと思います。

始まりは、1990年10月、長崎県対馬で開催されました九州北部三県知事懇話会におきまして、韓国南岸地域との交流推進が合意されました。これを契機といたしまして、九州北部の3県と韓国南岸地域の4市道による知事交流会議が始まり、1992年8月、済州道において第1回会議が、翌年の1993年6月、ここ佐賀県において第2回会議が開催されました。その後、1998年9月、全羅南道における第7回会議から山口県が新たに参加され、現在の8県市道の組織となり、現在に至っているところでございます。また、その後、2007年10月に開催されました第16回会議において、知事会議の理念について、これまでの「交流」から「共同繁栄」へと拡大転換をいたしました。

このように、長い年月の間、日韓8県市道のそれぞれのご努力によりまして、交互に会議が積み重ねられております。2020年、2021年とコロナ禍により往来ができなかった中でも、オンラインによる知事会議を継続し、2022年には、3年ぶりに対面での開催が実現いたしました。そして今回、第32回会議を佐賀県で開催される運びとなりました。

これまで、両地域間の友好関係の増進と相互理解の促進を図りながら、両地域の発展と繁栄に資するため、観光、経済、環境、水産、福祉、そしてスポーツなど、大変幅広い分野におきまして、日韓の共同により様々な交流事業を展開してきたところでございます。

ここで、これまでの30年を簡単にまとめました映像を準備しております。スクリーンをご覧くださいければと思います。では、お願いたします。

《動画上映》

以上、経過報告とさせていただきます。本日のご議論もどうぞお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、続きまして、議事に入りたいと存じます。議長は開催県が務めることになっておりますので、佐賀県の南里副知事が議長を務めさせていただきます。それでは、ここからは議長に会議の進行をしていただきます。南里副知事、よろしくをお願いいたします。

(3) 8 県市道発表

(佐賀県 南里副知事)

佐賀県の南里でございます。それでは、会議日程に従いまして、順次、各県市道から共通テーマの「スポーツ文化による地域活性化と広域連携・展開の可能性」について発表をお願いしたいと思います。その後、討論、議論をさせていただきたいと思います。

はじめに、全羅南道のミョン・チャンファン副知事様、お願いいたします。

(全羅南道 ミョン・チャンファン副知事)

こんにちは。はじめまして。全羅南道の行政副知事のミョン・チャンファンです。互いに学び、共に協力して発展しようという印象深い基調講演をしてくださいました片山善博教授に感謝申し上げます。

日韓海峡沿岸県市道交流知事会議で、「五感満足！ グローバル スポーツ観光都市 全羅南道」について説明できることを光栄に思います。8つある県市道の中で初めてすることは光栄なことと思ひ、説明させていただきます。説明順は、スポーツ観光の必要性から順にお話ししたいと思います。

「スポーツ観光の必要性」についてです。スポーツ観光はスポーツの活動と観光を合わせたもので、スポーツを直接楽しんだり、スポーツイベントに参加することで、特定の場所を訪問する観光を言います。コロナパンデミックのあと、スポーツイベントも増え、家族中心の余暇文化の定着、生涯スポーツ文化の大衆化に伴って、スポーツ観光需要が爆発的に増えています。スポーツ観光の必要性は、韓国と日本の地方政府が共通の課題として抱えている人口消滅と高齢化危機のよい代案として浮上しています。

では、スポーツ観光の代表的な事例として、「スプリングキャンプ誘致 活性化の事例」についてお話しします。全羅南道は温暖な気候と美しい自然の景観、そして、多彩な自然を保有している最適のキャンプ地です。これをもとに全羅南道は韓国のキャンプ地のメッカとして努力してきました。まず、選手たちの競技力向上のシステムの運営のために、科学的、システム的な運営をしています。昨年、大きな成功を集めた全国体育大会をはじめとして、ヨット、バドミントン、囲碁戦など様々な大会を開催し、その地位を高めています。

韓国で初めて「体育指導者招聘ファムツアー」を開催し、様々なインセンティブを与え

るなど、戦略を行っています。全羅南道を訪問した選手と関係者が、全羅南道の美食と自然を満喫できるように、様々なプログラムと連携をして行っています。こうした努力の結果として、全羅南道は今年、スプリングキャンプ、国内外の大会を通じて、89万人のスポーツ観光客を誘致しました。2021年と比べると、スプリングキャンプは4.3倍、国内外大会では20倍に増加しました。

誘致の成果として、生活人口の増加と地域経済の活性化として表れています。生活人口は2021年に比べ8.9倍に増え、スポーツ観光客の消費も9.7倍に増え、地域社会に大きな力となりました。とりわけトライアスロン・エクストリームスポーツの聖地、そして、野球、サッカーに特化したスプリングキャンプ地などをした康津郡、求礼郡がそれぞれ韓国国内で脚光を浴びています。

続いて、「今後のビジョンと発展戦略」についてお話しします。全羅南道は「五感満足！グローバルスポーツ観光都市 全羅南道」をビジョンとし、現在、2024年に89万人だったスポーツ観客の誘致を、2034年には300万人にすることを目標としています。まず、南道の食文化とスポーツのメガイベントの連携として、2025年度には南道国際美食産業博覧会を開催。また、全南国際水墨ビエンナーレ、国際囲碁戦などを開催する予定です。2026年には麗水世界島博覧会が開催されます。この期間、様々なスポーツ大会を共に行って、その効果を拡大させます。

続いて、高齢化時代を迎え、裸足・トゥルレギルウォーキング、パークゴルフ、登山、サイクリングなど、森林や海洋治癒資源を活用して楽しめるスポーツを形成します。また、南海岸をアジア海洋レジャースポーツハブ都市へと形成します。

最後、南道の美食連携のスポーツフードツーリズムの活性化を行っていきます。

皆さん、グローバルスポーツ観光都市に向かう全羅南道のビジョンは、日韓海峡沿岸県市道も含まれています。それに伴って、全羅南道からの提案です。全羅南道の日韓生涯スポーツ交流戦に、ここにおられます日本の4県も参加していただけますよう、協力をお願いいたします。また、日韓海峡圏高校野球大会、シニアパークゴルフ大会、スプリングキャンプチームなどの新規交流事業にもご協力をお願いします。

美しい自然と歴史、スポーツと文化を共に楽しめる全羅南道、これからも声援をお願いします。

以上で発表を終えたいと思います。ありがとうございます。

(佐賀県 南里副知事)

ミョン・チャンファン副知事様、ありがとうございました。

それでは、次に福岡県の大曲昭恵副知事からお願いいたします。

(福岡県 大曲副知事)

皆さん、こんにちは。アンニョンハセヨ。副知事の大曲でございます。先ほど片山教授からお話があったように、私も韓国語をもう少し勉強しまして、お互いの理解を深めたいと思っています。今日は、今回の幹事を務めていただいております佐賀県の南里副知事をはじめ、佐賀県の皆様には、ご準備に心からお礼を申し上げたいと思います。

私からは、世界から選ばれる福岡県の実現に向けまして、スポーツの分野におきましても戦略的にその実現に向けて取組を進めておるということにつきまして、お話をさせていただきたいと思っております。「選ばれる福岡県の実現に向けて」ということで、3つの取組を実施しておるところでございます。

まず、1つ目でございますけれども、「アスリートの発掘・育成」でございます。県民に夢と希望を与え、競技者の目標となるアスリートの育成に取り組んでいるところでございます。これは小学校の5・6年生、10歳、11歳、12歳というところでまず発掘を始めるということで行っております。2つ目は「国際交流」ということで、スポーツを通じた国際交流。県と交流先の双方の競技力の向上と、異文化理解、多様性の理解などにつながります人材の育成、交流人口の拡大によります地域の活性化に取り組んでおります。そして、右の3つ目ですけれども、「大会開催」でございます。トップアスリートの活躍を直接感じていただくことで、県民に勇気や感動をもたらすことができる大会になるように運営を行い、大会を通じまして社会課題の解決にも取り組んでおるところでございます。この3つにつきまして、詳しくご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、最初の「アスリートの発掘・育成」につきましては、これは本年7月から9月にかけて開催されました、パリの2024オリンピック・パラリンピックで活躍しました、福岡県ゆかりの選手でございまして、これについてお話をします。パリ大会におきましては、オリンピックでは38名のゆかりの選手が出場いたしまして、3名の選手が銀メダル、そして、5名が銅メダルを獲得いたしております。パラリンピックは12名の方が出場いたしまして、4名が金メダル、3名が銅メダルを獲得するなど、素晴らしい成果を挙げていただきました。

本県では、全国に先駆けまして、世界で活躍する選手の発掘・育成を目的といたしまして、福岡県タレント発掘事業というものに取り組んでおまして、これは大体小学校の高学年の子どもたちから育成を始めております。今回、修了生で初めてメダリストが誕生いたしました。また、今回のパリオリンピックにはメダリスト2名を含め、修了生の8名がこのパリオリンピックに出場いたしました。東京オリンピックでは3名でございましたので、かなり大きな飛躍がございました。

本事業におきましては、子どもたちがスポーツに出会う機会や、世界で活躍できる機会をつくることを目的といたしまして、スポーツへの適正が高いと考えられる子どもたちを見つけて育成するというシステムでございまして、個人の能力が生かせる競技を選択するというので、より高いレベルの活躍を目指す事業でございます。今後の活躍がますます楽しみになってきております。まずは幅広く皆様に試していただいて、そして、競技を選んでいただくということになります。

もう1つが、タレント発掘事業を、健常者から、今度は障害者スポーツにも分野を広げました。そして、2022年からパラアスリートの発掘育成事業を開始したところでございます。これは年齢を問わずということで行っております。この対象となる競技ですけれども、陸上競技、ボッチャなどの7競技でございまして、まず体験会、そして測定会を行いまして、育成のプログラムを実施しております。3年間の育成期間ということで行っておりまして、3年間で中央競技団体への強化指定選手になる選手の育成を目指しており

まして、既に車椅子のテニス競技におきまして、強化指定選手が出てきているという状況でございます。

次に、2つ目の「国際交流」についてでございます。本県は、ハワイ州とは特に人材の育成にかかる交流を深めていきたいと考えまして、人材育成に関する包括的な協力に関するMOUを締結いたしました。このMOUを礎にしまして、スポーツの分野では双方が強みを持つバスケットボール競技で交流を行っております。また、オーストラリアのニューサウスウェールズ州との間でも、ラグビー、野球、水泳の分野で、現地の競技団体等とMOUを締結いたしまして、昨年度はラグビー、野球におきまして、育成年代選手の交流を行いました。今年度から実施いたします水泳では、派遣先で開催されます選手権大会の出場によりまして、将来、日本の国の代表選手として国際大会に出場することを見据えた経験を積んでいただくということにしております。

続いて、本県におきますバレーボールの国際強化拠点化についての取組でございます。「バレーボールネーションズリーグ2024福岡大会」がございましたけれども、この開催を契機といたしまして、今年9月に福岡県と国際バレーボール連盟、日本バレーボール協会、オセアニアゾーンバレーボール連盟の4者で、アジア・オセアニア地域の若い世代を対象にいたしまして、バレーボールの普及・振興を目的といたします、国際強化拠点を福岡に設置するという事で合意いたしております。選手の発掘、競技会や交流プログラムの実施、コーチの育成、合宿の受け入れといった取組を中心に進めてまいります。これによりまして、本県におきますバレーボールの競技力向上や、世界に向けた人材の育成といったものにつながるとともに、アジア・オセアニア地域におきますスポーツ強化拠点といたしまして、本県のプレゼンスを向上させていくという取組になっていくかと思っております。

次に、大会の開催についてでございます。本県は国際大会を継続に行っているもの、また、新しく行っているものがありますが、継続的に行っているもののほかに、国際競技団体などから「福岡県で開催してくれないか」という要請がございまして、国際大会の開催ができるようになってきたところでございます。継続的に行っている国際大会ですけれども、まずは「ツール・ド・九州」、これが、九州の経済団体トップと各県の知事で構成いたします九州地域戦略会議において決定いたしまして、国際自転車競技連合公認のサイクルロードレースとなっております、ここで点数を稼ぐことができることになっております。昨年、第1回目を開催いたしまして、今年、第2回を開催いたしました。第2回の観客数ですけれども、昨年を大きく上回る10万1,000人を数えました。現在、経済波及効果について算定中なのですけれども、昨年度の大会の26億円を上回ることを期待しているところでございます。

また、こういうプロのツール・ド・九州の開催に合わせまして、「サイクリングアイランド九州」のブランド名の下で九州を周遊いたしますサイクリングツアー、こういったツアーを販売いたしまして、国内外からのサイクリストの誘客を行っているところでございます。これまで3県で開催してきておりましたけれども、2025年には長崎県も入っていただきまして、5県に拡大する予定でございます。将来的には九州全県で開催する大会にしたいと考えておるところでございます。

次に、福岡国際マラソンについてです。これは 12 月 1 日に行われたところでございます。本大会の特徴ですけれども、まず、ファンと選手の距離が近いということ。また、SDGs などの社会的課題解決に向けた貢献などの取組を行っているところでございます。今回は、吉田祐也選手という日本人の方が優勝いたしまして、日本歴代 3 位の記録を出していただきました。また、この大会は、今年開催されました代表レースの選考の 1 つとなっております。来年 9 月に開催されます、東京の「2025 世界陸上」がございしますが、この代表選考レースの 1 つとして位置付けられておりまして、非常に価値のある、長く続いておる大会でございます。

続きまして、国際競技団体から要請がございまして、福岡県で開催していただけないかということで開催した大会についてお話しいたします。本年の 6 月には、北九州でバレーボールのネーションズリーグを開催いたしました。これは男女各 8 カ国が出場いたしまして、国内外から総観客数 8 万 4,000 人に来場いただきまして、大変盛り上がりました。大会の開催に際しまして、社会課題の解決につなぐ取組といたしまして、人の健康、動物の健康、そして自然環境の健全性を 1 つに考えて守っていくという、ワンヘルスという理念の発信、また、本県の食や観光の魅力の PR などを行いまして、福岡県独自の取組にチャレンジいたしまして、地域振興につながるとともにスポーツ大会の価値を高めたところでございます。

そして、先月の 11 月ですけれども、2 つの大きな大会を開催いたしました。1 つは、卓球の国際大会であります「WTT FINALS FUKUOKA 2024」です。地元の北九州市の出身の早田ひな選手、また、韓国のシン・ユビン選手が出場いたしまして、大変熱い戦いを繰り広げ、盛り上がったところで、皆さんご承知のとおりだと思います。本大会でも県独自の取組といたしまして、小学生の観戦の無料招待、また、来場者に県の食や観光、ワンヘルスの取組を PR したところでございます。

もう 1 つは、今、はやりのアーバンスポーツでございます。パルクールの第 2 回の世界選手権を開催いたしました。ジュニア選手権も同時に開催されまして、合わせて世界 42 カ国から約 160 人の選手が参加いたしました。小倉城をバックに選手たちが軽快に障害物を飛び越えていくということで、観客から非常に大きな歓声が湧いたところでございます。福岡県といたしましても今後とも継続的に、こういった大規模国際大会の開催を通じまして日韓海峡沿岸地域の皆様にぜひ足を運んでいただいて、国際理解や文化交流を発展させていきたいと考えております。

以上でございます。スポーツというツールを使いまして、さらに国際交流を深めながら、世界から選ばれる福岡県の実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。ご清聴ありがとうございました。

(佐賀県 南里副知事)

大曲副知事、ありがとうございました。

それでは、次に、慶尚南道のキム・ミョンジュ副知事様、よろしく願いいたします。

(慶尚南道 キム・ミョンジュ副知事)

お会いできて光栄です。慶尚南道 経済副知事のキム・ミョンジュです。先ほどの副知事のお二方があまりにも素晴らしい発表だったので、私がついていけるか分かりません。また、この開催地であります、佐賀県の福知事に御礼申し上げます。また、日韓県市道の副知事の皆様に御礼申し上げます。地域活性化のためのこの場、日韓海峡沿岸県市道のますますの発展、また、交流が盛んになりますことを願っております。

まず、慶尚南道におけるスポーツの基本現況です。まず、2,750億、2万7,000人余りの人、公共スポーツクラブを含むスポーツクラブがあります。また、サッカー、ハンドボール、野球などのプロチームがあります。また、公共体育施設は1,200カ所を超え、5,000カ所余りの施設があります。野球場38カ所、テニスコート101カ所、水泳プール42カ所などがあります。

また、様々なスプリングキャンプ誘致による地域経済の活性化が行われております。温暖な気候を持つ地域でありますことから、スプリングキャンプも行っております。2021年には6万9,000人を超え、116%を超える15万人に訪問チームが増えています。地域経済の活性化に大きく貢献しております。

また、スポーツにおけるパラダイムの転換として、エリート選手などの育成、エリート選手による大会なども行っております。また、道民の健康増進に関しては、生活体育に密着したプログラム拡大として、早朝、深夜の生活体育教室など、また、パークゴルフの活性化なども行っております。また、ウォーキング文化の拡散としては、裸足ウォーキングコースの造成などにも力を注いでおります。

次に、今後の日韓海峡沿岸の交流をますます活性化させるために提案をしたいと思えます。まず、国際サイクリング大会「Tour de 日韓海峡」の共同開催です。現在、南海岸を舞台にしたサイクリング大会である「Tour de Gyeongnam」がありますが、これに関して、慶尚南道など沿岸地域をまたいだ、海岸観光資源を活用したサイクリング大会の共同開催を通じ、ツール・ド・フランスのように、また、福岡など九州の4県市をまたぐ、日韓海峡沿岸を走るサイクリングコースの開発を提案したいと思います。このコースですが、全羅南道をスタートとし、慶尚南道、釜山を経て、山口、福岡、長崎、佐賀、そして済州道を終点とするコースを考えたいと思えます。これが世界的なサイクリング大会として飛躍すること、また、観光資源として活用できるきっかけになるのではないかと思います。

第2に、お年寄りの人気スポーツであるパークゴルフの交流大会の開催を提案したいと思います。パークゴルフは日本から始まった試合であり、韓国においても大変な人気を博しています。日韓海峡沿岸県市道の知事会議とともに、この開催都市においてパークゴルフの交流大会を同時に開催すれば、ますます交流も盛んになるのではないかと思います。また、同時に中長期的に共同基金を造成し、交流大会の連続性を確保するという法案も提案したいと思います。

もう1つは、日韓の大学生同士によるスポーツ大会の共同推進です。慶尚南道地域においては、大学生によるスポーツ大会を11月に開催いたしました。この大会は大変素晴らしい大会となりました。人気スポーツ種目を推進するということで、各県市道の大学生を対象にし、地域優勝チームが参加する交流大会を開催すれば、相互間の友好推進、また、日韓海峡沿岸の交流を知らしめる良いきっかけになるのではないかと思います。

協力と交流のスポーツ活動を通じ、日韓海峡沿岸県市道が一層飛躍することを期待しております。

ご清聴ありがとうございました。

(佐賀県 南里副知事)

キム・ミョンジュ副知事様、ありがとうございました。

それでは、次に長崎県から、浦真樹副知事をお願いいたします。

(長崎県 浦副知事)

皆様、こんにちは、アンニョンハセヨ。長崎県副知事の浦真樹でございます。今回、日韓8県市道の皆様がここに集い意見交換できますことを、大変嬉しく思っております。また、開催にご尽力いただきました佐賀県の皆様に、心から感謝申し上げたいと思います。

それでは、早速、「長崎県の『スポーツ』を通じた地域活性化に関する取組」につきまして、ご説明させていただきます。本県の取組のうち、記載しております項目についてご説明いたします。

長崎県では、スポーツ振興の重要な指針となります「ながさきスポーツビジョン」を策定しております。ビジョンの中で「長崎の未来をスポーツで創る」を基本理念に掲げ、スポーツを「する」「観る」「支える」ことで、健康な体や生きがいをつくる、将来を担う子どもたちの健全な心と体を育む、県民に感動や活力を与え、地域に賑わいや豊かさを生み出していく、これらのことを目指しております。その理念を実現するための方針の1つが、「スポーツを通じた地域の活性化」です。

この方針に基づく取組について、幾つかご紹介させていただきます。本県では、スポーツツーリズムの推進を図るため、県内の市町や関係団体の皆様と連携して、国内外からのスポーツ合宿の誘致を行っております。海外チームの誘致につきましては、東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップにおける事前キャンプの誘致活動で得られた人脈、ノウハウなどを活用しながら取り組んでおりまして、本県と相手国との信頼関係の構築をし、合宿地としてPRすることなどにより、スポーツによる地域ブランド化を目指しております。これまで、国内外から多くの合宿を誘致してまいりましたが、海外チームとしては、「世界水泳福岡大会」に出場するポルトガル代表チームの事前キャンプや、日越外交関係樹立50周年記念事業として、ローイングアンダー18のキャンプ、また、武道ツーリズム推進の一環として、スイス剣道チームの強化合宿などの受け入れを行ってきてところです。

また、スポーツ大会の誘致や開催も、スポーツツーリズムを推進する上で重要な取組の1つとなります。本県では、大きな大会の開催を相次いで行っております。今年の9月から10月にかけて、本県初となる「日本スポーツマスターズ」が開催されました。これは、競技志向の高いシニア世代の選手によるスポーツの祭典で、全国各地から選手や監督など、合わせて1万人を超える皆様にご参加いただきました。大会の開催によって、本県の生涯スポーツの振興はもとより、交流人口の拡大、さらには本県の多彩な魅力も発信につながったものと考えております。

なお、「日本スポーツマスターズ」では、例年、韓国とのスポーツ交流事業が併せて行われております。今年は、4月25日から1週間、韓国の蔚山広域市に日本選手団を派遣し、また、9月26日から1週間、本県に韓国の選手団をお迎えしたところです。両国の選手や関係者の皆様は、競技やレセプションを通して交流を深めることができました。このご縁をきっかけに、韓国とのスポーツを通じた交流が民間レベルでもさらに一層深まり、さらには他の分野における交流にもつながっていくことを期待しているところであります。

次に、先ほど福岡県の大曲副知事からもお話がございましたけれども、来年、2025年には「ツール・ド・九州」が本県で初めて開催されます。これは、九州の経済界と開催県が連携し2023年にスタートした、国際サイクルロードレースです。本県では、県の北部に位置します佐世保市において、短い距離を周回するクリテリウム形式のレースが行われます。国内外から多くの選手、観客の皆様の来訪が見込まれ、交流人口の拡大、開催地の魅力発信の絶好の機会となりますことから、この機をしっかりと捉え、スポーツの振興はもとより、佐世保市や周辺地域、さらには、九州全域の地域活性化につながるよう努めてまいりたいと思っております。

なお、本県におきますスポーツ合宿や大会の参加者数は、2020年度から2021年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少いたしましたけれども、現在はコロナ禍前の水準に回復しつつあります。今後も、本県の地域資源を活かしながら、スポーツ合宿や大会の誘致に取り組むとともに、来県いただいた方の満足度を高め、リピーターとしても定着いただけるように、市町や競技団体の皆様とも連携しながら取り組んでいきたいと思っております。

次に、プロスポーツクラブとの連携です。本県には2つのプロスポーツクラブがあります。1つは、先週、J1昇格をかけたプレーオフ準決勝にて惜しくも敗れはしましたけれども、最後まで健闘した「V・ファーレン長崎」です。もう1つは、プロバスケットボールリーグ参入後、最速でB1リーグ昇格を成し遂げた「長崎ヴェルカ」です。県では、この2つのプロスポーツクラブと、県内の全ての市町と、定期的に情報共有や意見交換を行う場を設け、クラブの地域貢献活動を活用した取組を検討しております。県内の子どもたちを招待したスタジアム体験交流ツアーなど、クラブや市町と連携した取組の推進を図っております。地元プロスポーツクラブの活躍は県民の皆様にも夢や感動を与え、誇り、愛着を醸成するとともに、交流人口の拡大にもつながりますことから、引き続き両クラブと連携した取組を推進していきたいと思っております。

そして、両クラブの新たな本拠地として今年10月に開業を迎えたのが、「長崎スタジアムシティ」です。この施設は民間主導のプロジェクトによるもので、最先端の設備を擁したアリーナや、躍動感あふれる試合観戦ができるスタジアムに加え、ホテルやショッピングモール、オフィスなど、様々な機能を有しております。立地も、長崎駅から徒歩10分ほどと、まちの中心部に位置しておりますので、長崎の魅力を高める新たなランドマークとして、スポーツだけでなく、観光や産業振興などへの貢献も期待されております。施設では、サッカーやバスケットボールの試合だけではなく、年明けにはアイススケートショーが予定されるなど、本県のスポーツシーンに新たな活気を与えてくれるものと確信しております。県としては、このスタジアムシティの開業効果を広く波及させていくことが重要

であると考えておりました、引き続き、こうした民間の取組を後押しするとともに、施設や関係者とともに地域活性化を目指してまいります。ぜひ皆様にもこの長崎スタジアムシティへ足をお運びいただければと思っております。

次に、障害者スポーツの推進についてご紹介いたします。本県では障害者スポーツの裾野を広げる取組として、障害のある方々がスポーツ活動に親しみ、積極的な社会参加と生活の質の向上を図ることを目的に、県の障害者スポーツ大会やスポーツレクリエーション教室の開催、障害者スポーツの指導者の派遣などに取り組んでおります。また、国際大会や国内大会で活躍するアスリートとの交流の場を設け、障害者の方のスポーツへの参加意欲の向上や障害に対する理解促進に取り組んでいるところであります。今後も、障害のあるなしに関わらず、広く人々がスポーツに参画できる環境を整備していくとともに、障害者スポーツの関心を高め、その障害者スポーツの裾野を広げる取組を進めていきたいと考えております。

最後になりますけれども、スポーツは、日本の国のスポーツ基本法でうたわれるとおり、世界共通の文化であります。本県では、この価値を活かし、今までご紹介いたしました取組をはじめとする施策を、他の県や県内の市町、民間の皆様とも一緒になって展開し、スポーツを通じた地域活性化を推進していきたいと思っております。

以上、長崎県からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。カムサハムニダ。

(佐賀県 南里副知事)

浦副知事様、ありがとうございました。

それでは、次に、釜山広域市 ソン・ヒョプ政策首席補佐官、お願いいたします。

(釜山広域市 ソン・ヒョプ政策首席補佐官)

こんにちは。釜山広域市の政策首席補佐官のソン・ヒョプです。佐賀県の副知事、6つの副知事の皆様にも感謝申し上げます。日韓関係がいい時も悪い時も、32年間、知事会議をたゆまず行ってこられました日韓両国の関係者の皆様にも、格別なご挨拶を申し上げ、深い敬意を表します。

今回のテーマは「スポーツを通じた地域の活性化」です。先に発表された4名の方のお話を聞くと、また、私のあとに発表される方も、皆さん、同じような悩みを抱えていると思います。ただ、我々は地域の経済の活性化よりも、このスポーツを通じて市民の生活の質をどうすれば上げられるかというところに着目して、スポーツの政策を用意しました。一言で言うと、スポーツが福祉政策の1つとして大きな政策手段となると見ています。ですので、今年、たくさん準備をして、来年にはこれまでとは違う革新的なスポーツ政策を広げるべく準備をしています。若い人の場合は、1人で心を痛めている人もいますけれども、若者だけではなく高齢者も一人暮らしの人たちの精神健康、そして、身体的な健康に問題が生じています。我々はそういった面を改善しようと努力しています。2つ目、これを通じて、我々は地域の共同体を回復力のある都市として進むことにかじを切っています。

では、我々が準備している釜山市のスポーツのビジョンと戦略について具体的に説明す

る前に、今年、釜山市で行われた大きなスポーツイベントの成果についてお話しします。釜山はロッテジャイアンツが有名な所ですが、92年度に優勝後、一度も優勝していません。9個ある球団のうち、7位、8位、9位というふうにはずっと続いています。今年、プロのバスケットボールチームが釜山に移転したのですけれども、初年度に優勝しました。そして、2024年、世界卓球選手権大会を釜山で開催しました。また、釜山市で行っている重要な政策に、15分以内の生活圏での生活スポーツ施設の拡充があります。市民が必要なスポーツ施設、各種スポーツプログラムを地域の住民が自分たちの住んでいるエリアで楽しめるようにするという政策です。こういった面から、スポーツ施設を大幅に拡充してまいりました。

では、釜山のスポーツビジョンについて、具体的にお話ししたいと思います。釜山市は「生まれ変わっても暮らし続けたい『スポーツ天国都市釜山』」をビジョンとして掲げています。そのビジョンの下、5つの目標を定めています。1つ目は生活スポーツ天国都市、2つ目は専門スポーツ先導都市、3つ目はバリアフリー・スポーツ都市、4つ目はグローバルスポーツハブ都市、5つ目がプロスポーツ活性化都市です。それぞれについて1つずつ詳しくお話ししたいと思います。

まず、「生活スポーツ天国都市釜山」。我々は超高齢化社会に対応するため、世代ごとに楽しめる生活スポーツのために、パークゴルフ場、テニス場、総合スポーツ施設を拡充する計画を持っています。慶尚南道は韓国で最もパークゴルフ場が整備されていますが、我々も慶尚南道をモデルとして、来年からはパークゴルフ場を500ホール以上つくるべく準備を進めています。このように、市民が生活圏の中で楽しめる生活スポーツ施設を1つずつ拡充してまいります。続いて、民間で行っている様々なアカデミーが、価格は高く施設も不足していますので、公共分野で生活スポーツに専門アカデミーを誘致して行くことを予定しています。

2つ目は、「専門スポーツ先導都市釜山」です。海外の同胞も参加する全国体育大会が来年10月に釜山で開催されます。約3万人余りの選手団が参加するこの体育大会は、韓国最大規模の体育大会で、障害者全国体育大会も同時に開催されます。また、釜山市ではその競技場をはじめとする施設を造成し、また、スポーツ選手の育成にも関わっていく予定です。

次は、「バリアフリースポーツ都市釜山」です。差別なく参加できるバリアフリースポーツの基盤を整備する予定です。健常者だけでなく障害者も楽しめる、そうした大会です。障害者向けのスポーツイベントを開催します。障害者が気軽に利用できるようなスポーツ施設も拡充していく予定です。

続いて、「グローバルスポーツハブ都市」についてです。来年12月にはアジアで初めてIOCの委員が参加する世界ドーピング防止機構総会が釜山で開催されます。この大会の成功のために、皆さんの関心とご協力をお願いします。また、釜山オープン国際男子チャレンジ大会、釜山オープン国際車椅子テニス大会など、様々な国際大会が行われます。今後も様々な国際大会を誘致していく予定です。

続いて、「プロスポーツ活性化都市釜山」です。釜山はスポーツに対しての格別な文化を持っています。特にビニール袋をかぶってする応援が有名です。人気の高いプロスポー

ツ球団がありますが、プロスポーツを通じて市民が釜山に対しての誇りを持てるように、サービスを提供する予定です。既存のスポーツ施設をリニューアルして、それぞれの球団のキャンプ地の施設をより改善する予定です。

来年は釜山がスポーツ天国都市の元年と位置付けています。特別なスポーツイベントを用意しています。先に福岡市と慶尚南道がツール・ド・大会を予定されていましたが、釜山でもツール・ド・セブンブリッジという競技を行います。釜山は（ナットンユーキ 02:06:12）まで7つの橋がかかっています。我々はその橋を渡るセブンブリッジ大会を計画しています。慶尚南道で日韓海峡沿岸ツール・ド・大会を提案されましたが、とても良い提案だと思いました。釜山の場合は海の上を走る、そして、最後には洛東江のほとりを走る。そういう自然景観を持っていますので、約100kmほどの大会として予定していますが、日本と釜山の海岸を全てつなぐと、400km、500kmになると思います。すると、世界的な大会を開催できるのではないかと思います。

続いて、釜山は洛東江を利用できる国際トライアスロン大会も計画しています。こういった、これまでなかった2つの大きな大会を予定していますので、ここにおられます日韓海峡沿岸県市道の皆様も関心を持っていただきまして、また協力して行っていけるようになればいいと思います。

これで発表を終わります。

（佐賀県 南里副知事）

ソン・ヒョプ政策首席補佐官、ありがとうございました。

（司会）

それでは、ここで約10分間の休憩といたします。再開時間は15時20分といたします。

《休憩》

（司会）

皆様お集まりのようですので、会議を再開したいと思います。議長の南里副知事、よろしく願いいたします。

（佐賀県 南里副知事）

それでは、次に、山口県の平屋隆之副知事からお願いいたします。

（山口県 平屋副知事）

ヨロブン アンニョンハシムニカ。山口県副知事の平屋隆之です。韓国からお越しの皆様方には、ようこそ日本へいらっしゃいました。先ほど、片山先生の講演の中でも少し触れていただきましたけれど、「ようこそいらっしゃいました」を山口弁で言うと「おいでませ」と言います。本県の観光キャンペーンのキャッチフレーズでも使っていますので、ぜひこの「おいでませ」を覚えて帰っていただけるとありがたいと思います。それから、今

回の開催県であります佐賀県の南里副知事をはじめ、関係の皆様方のご尽力に重ねて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

それでは、山口県における「スポーツによる地域活性化の取組」についてということで、少し具体的にご紹介させていただければと思います。

ご案内のとおり、山口県は三方を海に開かれ、中央に中国山地が走り、沿岸部から山間部まで、非常に豊かな多面的な自然と美しい景観を有しております。また、かねてから道路県と呼ばれることもよくあるのですけれども、幹線道路のネットワークも整備が進んでいます。こうした中、日本国内ではコロナ禍を契機に、人が密になる場所を避けてキャンプなどのアウトドアを楽しむ方が非常に増えてまいりました。山口県では、豊かな自然や景観を楽しめるキャンプ場が県内に 45 か所ございます。人口当たりでは国内 8 番目ということで、結構数が多くありまして、利用者数も、勢いは一時期より衰えてはきたものの、引き続き増加傾向にあるという状況でございます。

そこで、自然豊かな山口県のポテンシャルとアウトドア人気の高まりを捉えて、アウトドアスポーツの視点を取り入れた新しいスポーツツーリズムを創出するために、「スポーツフィールドやまぐち」と銘打ちまして、県内外からの誘客を推進しているところです。具体的には、県内のキャンプ場を利用してもらいながら、カヤックやサイクリング、登山などの様々なアクティビティを楽しんでもらおうというものでありまして、本年度中には、国の特別天然記念物である秋芳洞の中にも未公開エリアが幾つかあるのですが、そこにケイビングツアーを設けるという取組も始まる予定になっています。

また、サイクリングについては、日本側でいくと福岡県、長崎県さんからツール・ド・九州の話もございましたし、慶尚南道のキム・ミョンジュ副知事からは国際サイクリング大会ということでご提案もいただきましたけれども、山口県も「サイクル県やまぐち Project」と銘打って、お勧めのサイクルルートの情報発信やサイクリング環境の整備を進めているところです。

まず、ここで、本県が誇る日本最大級のカルスト台地の秋吉台にあります、サイクルルートの紹介動画をご覧くださいければと思います。

《動画上映》

「カルストロードを走る。まじ、クライマックス。わー、すげえー。やったー、走りたかった、ここ。おー、すげえー。うわー、めっちゃめっちゃすごいぞー。気持ちいいー。とにかく天気が最高やね。これ、天気が悪かったら、ちょっとまた見え方が違うと思うから、この天気が晴れよ。めちゃくちゃきれいよな。最高や。」

これは、登録者数 7 万人を超える有名なサイクリストインフルエンサーとタイアップしまして、YouTube で発信しているものです。また、立ち寄りポイントなどの魅力を盛り込んだルート別のサイクルマップの作成であったり、さらに、レンタカー、休息施設などの協力を得て、県内各所にサイクルスタンドや修理用具などを備えたサイクルエイド等も整備しています。韓国からもたくさんの方が来県され、楽しんでいただいているところです。引き続き、九州各県とも連携して、サイクルツーリズムの魅力向上に取り組んでまいりたいと考えております。

今年 3 月には、アウトドア活動等の促進を通じた地域活性化を進めるために、日本のア

ウトドア総合メーカーの株式会社モンベルと包括連携協定を締結いたしました。これを契機として、モンベルが各地で手掛けるカヤックなどのパドルスポーツ、自転車、登山の3種のアクティビティを行う環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」を誘致することとしまして、2025年度の開催に向けて、今、準備を進めているところです。

続いて、山口きらら博記念公園の交流拠点化の取組についてご紹介させていただきます。この公園は、山口県山口市にありまして、山口の県央部に位置し、約130ヘクタールの広大な敷地と、海に面した絶好のロケーション、大規模な駐車場や芝生広場など高いポテンシャルを有し、多目的ドームや水泳プールなどのスポーツ施設も整備しております。この公園を、県内の元気と活力を創出する交流拠点、あるいは集客拠点として再整備することとしておりまして、現在、フラワーガーデンや大規模複合遊具の整備に着手しています。今後、順次、アーバンスポーツなど様々なアクティビティが楽しめるエリアを整備していく予定ですので、スポーツを楽しむ多くの方々に訪れていただければと考えております。

次に、山口県を拠点に活躍するトップスポーツチームとの連携による取組です。サッカーのJ2に所属する「レノファ山口FC」、バドミントンの社会人トップチームが参戦するS/Jリーグの「ACT SAIKYO」、さらには、女子7人制ラグビーの国内最高峰のシリーズ戦で総合優勝4回を誇る「ながとブルーエンジェルス」などのチームとの連携を図って、誘客イベントやスポーツ教室などを開催いたしまして、交流の拡大を図っているところです。

最後に、スポーツによる国際交流の紹介でございます。毎年下関市で開催しております、「下関海響マラソン」には、国内はもちろん、韓国など海外からも多くの方にご参加いただいております。関門海峡や響灘の雄大な景色は絶景でありますし、沿道の多くの方々からの応援や、ボランティアスタッフの心遣いは、ランナーから好評を得ているところです。また、昨年は、東京オリンピックの決勝で対戦した両チームによる日米対抗ソフトボールの誘致や、福岡県で開催された世界水泳の事前キャンプとして、スペイン代表チームをお招きするなど、山口県内でも盛んに国境を越えたスポーツの交流が行われております。

スポーツは人と人との交流、そして、地域と地域の交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものでありまして、地域社会の活性化を進める大きな力となるものです。引き続き、スポーツの持つ力を最大限に活用し、「輝く、夢あふれるスポーツ県やまぐち」の実現を目指して、スポーツの振興に取り組んでいきたいと考えているところであります。ぜひ多くの皆様に山口県にお越しいただきまして、スポーツを楽しみ、汗を流していただき、そのあとには、本県の豊かな海の幸、山の幸、おいしい地酒をご堪能いただきたいと思っております。

私からの発表は以上となります。ご清聴ありがとうございました。カムサハムニダ。

(佐賀県 南里副知事)

平屋副知事様、ありがとうございました。

それでは、次に、済州特別自治道のキム・エスク副知事様、よろしく願いいたします。

(済州特別自治道 キム・エスク副知事)

日韓海峡沿岸8県市道知事会議の参加者の皆様、お会いできて光栄です。韓国済州特別

自治道 政務副知事のキム・エスクです。先ほど、素晴らしいお話をしてくださいました。ありがとうございます。

本日、済州からは「スポーツを通じた済州経済の活性化」をテーマに、済州の持続可能性についてお話ししたいと思います。済州は韓国政府が認めた世界平和の島です。済州は国家外交の限界を補う活発な地方外交を展開し、世界平和を広めるため最善を尽くしています。スポーツもまた平和を広め、より進める地方外交の柱であります。スポーツは、国境と文化、言語の壁を越え、連帯と協力の力を発揮するからです。

オリンピックを見ても、その持つ意味が見て取れます。オリンピックはスポーツが架け橋となって平和的外交の場をつくる代表的な事例です。画面の選手は済州のスポーツ史上発のオリンピック個人種目で1位を取った、19歳の、金メダリストであり誇るべき済州出身のオ・イェジン選手です。オ・イェジン選手が金メダルを取った瞬間、その喜びと感動は言葉にできないほどでした。このように、スポーツは平和の象徴であると同時に、より良い明日のために歩み出させる希望の原動力であります。また、スポーツは平和を伝播されると同時に、地域経済を活性化させる役割を担っています。ですので、世界平和の島である済州にとって、スポーツは重要なコンテンツなのです。本日、済州はスポーツを媒介とした様々な政策とその効果を説明し、日韓海峡沿岸県市道とのより強力な連帯と協力法案を模索したいと思います。

済州は大韓民国を代表するスポーツのメッカです。特に冬の温暖な気候により、冬期キャンプに最適な地であります。また、国際的な観光都市にふさわしい宿泊、レストラン、ショッピングといった楽しめる所がたくさんあり、ユネスコ世界自然遺産に指定された恵まれた自然のおかげで、ヒーリングのためのプログラムも豊富にあります。済州はこのような強みを生かし、国内外のスポーツ大会を誘致し、地域経済と観光の活性化に貢献しています。2024年11月の済州道のスポーツ産業における地域経済波及効果は、2兆241億ウォンでした。ゴルフ観光が済州に与えた経済効果は1兆4,163億ウォンと最も高く、合宿訓練が4,202億ウォン、スポーツ大会が1,705億ウォンと続きます。

特に済州は合宿訓練チームの誘致を強化し、スポーツ観光都市として跳躍すべく、力を傾けています。コロナ禍以降、サッカー、野球、テコンドー、水泳、バスケット、陸上競技といった様々な種目の国内外選手団が合宿キャンプ地として済州を選択しています。2022年、3,327チーム、5万3,000人余りが、昨年は4,138チーム、6万5,000人と大きく増えました。今年は10月の時点で3,015チーム、5万1,000人と、年末までに6万7,000人の誘致目標を達成する予定です。

済州は合宿・キャンプ誘致をより拡大させるために、様々な政策面、行政面における支援を展開しています。まず、スポーツの専門家と実務者で構成された、民・官タスクフォースチームを運営し、管理体系を強化しました。特に2025年の合宿・キャンプ誘致拡大のための計画を策定、総合支援策を準備しています。公共体育施設の無料利用や、ストーブリーグの運営、体力強化プログラムの支援、傷害保険の加入支援など、実質的優遇策提供も計画しています。また、地域特産物の慰問品、道内の直営観光地の無料入場のインセンティブも準備しました。照明工事や芝生の交換のような施設補強はもちろんのこと、様々な支援を行っています。

済州は国内外のスポーツを誘致し、高付加価値の観光需要を創出しています。国際大会は、昨年は16大会、今年は18大会、1万9,000人と増加しました。全国大会は、昨年53大会、2万7,000名から、今年は41大会、3万5,000名と、参加人員が大きく増加しました。代表的なものとしては、昨年1月、済州で国内はもちろん、モンゴル、インドネシア、日本、ベトナムなど海外の若者が参加する、「ストーブリーグ in 済州」が開かれ、大変好評を博しました。アジアのサッカーの期待の星たちが済州に集まり、共に汗を流して技量を磨きます。また、世界的にも有名なUTMBワールドシリーズの一環である、「トランス済州国際トレイルランニング大会」が開かれ、多くの注目を集めました。また、大会では韓国の名所であり、最も高い漢拏山を背景に大会が繰り広げられました。48カ国から4,000人余りが参加。このうち、外国人参加者が1,730人余り。外国人参加者の熱い熱意に包まれました。

11月には、済州で最高・最大のマラソン大会である、「済州柑橘マラソン大会」が開かれました。史上最大の8,800人が参加し、スポーツメッカとして済州のステータスを確認しました。今後、済州は各種プロ大会、また、国際Aマッチ競技のため、予算を編成し、支援を拡大。スポーツマーケティング活動をより強化していく予定です。

済州は世界平和と繁栄のプラットフォームである、「JEJU FORUM」を開催しており、地方外交、気候、環境、エネルギーといったグローバルイシューを解決する他者間の協力法案を提示しています。「より良い世界のための協力」をテーマに、58のセッションを運営し、大変な好評を得ました。来年は「平和と共通の繁栄のための革新」をテーマに、より具体的で実践的な課題を発掘する予定です。特に、来年、フォーラムでは60カ国、50を超える機関が参加し、50を超えるセッションが行われるものと予想されます。2025年は済州世界平和の島指定された20周年です。済州が日韓海峡沿岸県市道交流知事会議の開催地となる特別な年でもあります。今年の連帯、協力を輝かせ、新たなビジョンを共有する場となるよう、準備に最善を尽くしたいと思います。県市道の皆様が温かい関心を寄せていただき、参加していただくことをお願いしたいと思います。

これからも済州はスポーツを通じた新たなビジネスを創出し、平和な未来のための持続可能な協力と成長の機会を切り開いてまいります。

ありがとうございました。

(佐賀県 南里副知事)

キム・エスク副知事様、ありがとうございました。

(佐賀県 南里副知事)

それでは、最後に佐賀県から発表させていただきます。発表させていただく前に、今年10月に佐賀県で開催いたしました、「SAGA2024 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の成果動画をご覧ください。

《動画上映》

ありがとうございました。それでは、スライドを出してください。

ただ今、SAGA2024の映像をご覧いただきました。今回のSAGA2024は、体育からスポー

ツへと生まれ変わった新しい大会でした。スポーツが持つ楽しさや素晴らしさを誰もが実感できるような、前例のない大会を目指しました。する・観る・支えるという面から全ての人に笑顔届けた本大会は、スポーツの力や可能性を改めて印象付けることができたと思っています。

SAGA2024では、県内のスポーツ文化の裾野の拡大とアスリートの世界への挑戦を後押しするSSP（SAGAスポーツピラミッド）構想の1つの跳躍点ということで取り組みました。これからも将来を見据えた人材育成などを通じて、佐賀から世界に挑戦できる世界基準の取組やスポーツ文化の裾野を広げる取組を推進していこうと思っています。

SAGA2024のメイン会場となりましたSAGAサンライズパークは、SAGAアリーナ、SAGAアクア、SAGAスタジアムなどの施設を一体的に整備しました。県民が日常的に楽しめるように、開放的な空間にカフェやショップが建ち並ぶパークテラス、ナイトランも楽しめるランニンググループなども兼ね備えています。

SAGAサンライズパークの中心となるのは、昨年5月に新時代の多目的エンターテインメントアリーナとしてオープンした、SAGAアリーナです。SAGAアリーナの設計思想は、マルチ&シンプル。全国唯一の3つの大型ビジョン、国内最大35度の勾配の観客席、全席にドリンクホルダーを完備、様々なシーンで活躍できるプレミアムフロアを用意、演者を引き立てる黒基調の会場といった工夫をしています。

SAGAアリーナでは、バスケットボールBリーグ1部 佐賀バルーンズ、それから、バレーボールVリーグ1部 久光スプリングスなどのプロスポーツの試合を開催しています。プロスポーツ以外にも、大規模な展示会やビッグアーティストによるコンサート、アイスショー、大型のMICEなども開催しています。日韓で活躍するNiziUのコンサートなどもやりましたし、プロスケーター羽生結弦くんのアイススケートツアーなども開催したところです。明日、12月8日はこのSAGAアリーナを視察していただくようにしています。

Sagan World Cupということで取組をしています。このSagan World Cupは、県内で働く外国人や外国人留学生、そして、日本人学生などが一緒に楽しく交流することを通じて、地域を好きになってもらうことを目的に開催されたフットサル大会です。サッカーJ1リーグ サガン鳥栖の協力のもと、サガン鳥栖のホームスタジアム、「駅前不動産スタジアム」で行われた本大会では、Jリーグの社会連携活動の「地元の元気賞」にも選出されました。これまでに2回開催し、延べ55カ国、285名が参加。参加者からも好評であったため、関係者のご協力のもと、第3回大会も本年12月15日にこのスタジアムで開催することとしています。

2024年11月24日には、本県主催で、県内の外国人や日本人と一緒に参加する運動会、「第1回佐賀さいこう！国際運動会・交流会」を開催いたしました。初めて鉢巻きを身に付ける外国人の皆さんは、みんな笑顔で、玉入れやバトンリレー、借り人競走といった競技でも外国人と日本人とが共に大きな歓声を上げながら笑い合いました。言語の壁を越えて交流ができるということ、スポーツの力が示された一例でございます。

これまでご紹介してきましたとおり、スポーツには年齢や性別、国籍、言語、障害の有無など、様々な壁を越える力があります。地域の活性化を考える上で、スポーツは欠かせない観点の1つです。国や地域、言語や障害の有無も超えるスポーツの力で、日韓海峡地

域の絆をより一層深めるため、今回、日韓パラスポーツ交流大会の実施を、新規共同交流事業として提案したいと思います。まずは私自身がスポーツの力を体験することが重要です。そのきっかけとして、明日、SAGAアリーナにおいてゴールボールの体験の場を用意しているので、皆様にもぜひご参加いただければと思います。

私からは以上です。ありがとうございました。

(佐賀県 南里副知事)

以上、皆様から発表いただきました。ありがとうございました。皆様方から「スポーツ文化による地域活性化と広域連携・展開の可能性」を共通テーマとした、各縣市道の施策や事例などを発表していただきました。

(4) 自由討論

(佐賀県 南里副知事)

ここからは、皆様方から発表がありました内容を中心として自由に討論する時間にしたと思います。よろしく願いいたします。

ご質問やご意見等がありましたらお願いいたします。

(釜山広域市 ソン・ヒョプ政策首席補佐官)

福岡の副知事に質問いたします。先ほどお話しされた時、ツール・ド・九州を4年間開催されたとおっしゃっていましたが、コースをつなげていくのですか。もしくは、別のコースにしているのでしょうか。もう少し詳しくお話いただければと思います。

(福岡県 大曲副知事)

ありがとうございます。実は今まで昨年、今年の2年と、来年、3年目ということで、コースにつきましては、それぞれの県が、どういうコースをつくっていくかということをご提案しながらということなのですが、この大会は日数制限などがあるので、さすがに全部はつなげないのです。それで、国際レースとして認められる距離を取って、そして、各県の中でどういうコースをつくっていくかというのを、それぞれで毎年考慮しながら考えております。

ちなみに、福岡県については、去年と今年ではコースが全く違いました。去年は長いレースで、今回は非常に海岸線を通る景観のいいコースということで、それぞれの市町村と協力をしながらコースをつくっていくというような状況になっております。本当は九州全部をつなぎたいところではありますけれども、それぞれの県にお願いしています。

ありがとうございました。

(佐賀県 南里副知事)

ほかにございませつか。どうぞ。

(慶尚南道 キム・ミョンジュ副知事)

今、スポーツ活性化交流を通じた8県市道のお話を伺いましたけれども、交流の種目を定める前に原則を定めるべきだと思います。地方レベルでできるものは限界がありますので、国レベルまで広げてしまうと、地方はその中のすごく小さな存在になってしまいますので、この8県市道のみができる種目に限定すべきだと思います。2つ目の原則は、この8県市道が共通に関心を持っている分野に決めればいいのではないかと思います。そうすることで持続可能で、多くの参加が見込めると思います。

次に、実現の可能性です。スローガンだけ掲げて、実際に実行できなければ、今日こうして会議を行う意味がありませんので、実行可能性を3つ目の原則として定め、交流できる種目を決めれば、サイクリングの場合は九州もありますし、釜山もありますし、もちろん全羅南道、済州島にもありますし、日本のほかの地域もあったように思います。サイクルはいいのではないかと思いますし、また、8県市道の知事会議の時に、大統領杯のように、日韓海峡沿岸県市道知事杯といったものを開催する。この種目としては、8つの県市道で人気のあるパークゴルフ、先ほど私が申し上げましたように、青少年、もしくは大学生のサッカー大会といったものが可能ではないかと思います。マラソンも可能ではないかと思います。また、パラスポーツも可能だと思います。いずれにしましても、我々の全ての地域で技術がある、そういった競技がいいと思います。

参加するのに予算も少なければ少ないほどいいですし、参加しやすければしやすいほどいいと思います。そういった競技を選定するのがいいのではないかと思います。

ありがとうございました。

(佐賀県 南里副知事)

ありがとうございました。日本側から何かありますか。

(山口県 平屋副知事)

今のご提案は大変素晴らしいご提案だと思います。もう1つ原則を付け加えさせていただくならば、持続可能性ということにもこだわるべきではなかろうかと思います。一時的なイベントだけで終わってしまったのでは、それが地域に定着もしませんし、地域の活性化にもなかなかつながっていかない。あまり無理はない形で、それを続けていくことで、住民の方を巻き込んでいくとか、それがまたいろいろな形で地域の経済に波及していくというような流れをつくっていくという意味でも、もう1つ付け加えたらいかがかなと思いました。以上です。

(佐賀県 南里副知事)

ありがとうございました。

では、私から少しお話しさせてください。ただ今の提案に関しまして、今、山口県のほうからもありましたように、やはり、一過性のイベントで終わってしまうというのはもったいないと思います。いかにこれを持続的なものにするか。もしくは、様々な意味での波及効果があるものにするということが必要かだと思います。

1つの例として私どもから申し上げさせていただきますが、今回、佐賀県からパラスポーツの提案をさせていただきました。佐賀県では、今年、SAGA2024の全国障害者スポーツ大会ということで、今までにはないような規模で障害者の皆さんの参加をいただきました。これの何が良かったかという、どちらかという、そうした機会がなければ自宅に閉じこもっておられたような障害者の方が、スポーツというツールを使って実際に社会に出てこられて、自分で頑張っておられる。また、社会に参加するという大きなきっかけになりました。これは非常に大きな成果だったと思います。これは1つの例ですけれども、こうしたことにつながるというのも、スポーツの効果なのではないかと思っています。

そういったことも含めて、単に交流をして、イベントをするということではなくて、何かにつなげていく。スポーツというツールを使って何かを広げていくと、そういったものができればと思っています。以上です。

よろしいですか。いかがですか。

(済州特別自治道 キム・エスク副知事)

済州道のキム・エスク副知事です。佐賀県の南里隆副知事をはじめとする関係者の皆様、今回のこの会議のためにご尽力くださいました。ありがとうございます。来年は済州道でこの会議を開催しますが、万全を期すように、来られた皆さんが満足いただけるようにご準備をします。多くの皆さんのご参加をお願いいたします。明日訪問予定のSAGAアリーナスタジアムに大変興味を持っております。明日訪問して、様々な質問とか、アドバイスを聞かせていただければと思います。よろしく申し上げます。

済州道では様々なスポーツがありますが、先ほど、福岡の副知事がお話しされました国際マラソン大会に、とても多くの関心を寄せています。済州道でも様々なマラソンがありますが、先ほどお話ししましたように、済州の柑橘マラソンもあります。この両都市間で、マラソン大会で連帯と協力をできる方法を我々も検討して、努力してみたいと思います。今後とも、ご助言と、そしてまた、済州道のほうでも努力したいと思います。ありがとうございます。

(佐賀県 南里副知事)

ありがとうございます。ほかにご意見等、ございませんか。浦副知事、いいですか。

(長崎県 浦副知事)

ありがとうございます。佐賀県のほうからご提案がありました、今回の交流会議での1つのご提案ということで、スポーツ交流、特にパラスポーツでの交流というご提案がありまして、基本的には賛同の立場です。先ほど来、全羅南道さん、それから、山口県さんからお話がありましたように、実現可能性、持続可能性、それから、波及効果等々を含めて、確かにパラリンピック等でかなり障害者スポーツに対する関心は高まってきたようには思いますけれども、やはりまだまだ地域においては、障害者の方のそういったスポーツ参加、社会参加という部分での光の当たり方といいますか、そこはもっともっと高めていく必要があると思っています。

そういう意味で、先ほど来、釜山市さんなどもバリアフリー・スポーツを進めるというお話もございましたし、地域共通の取組として、このパラスポーツを1つ取り上げるという意味では、先ほど南里副知事からもお話がありましたけれども、単なるスポーツ振興だけではなくて、障害者の方の社会参加をさらに進めていく大きなきっかけにもなると思いますし、それをこの8県市道の共通の取組として発信していくというのは、非常に意義のあることだろうと思いますので、基本的には私は賛成の立場で意見を申し上げたいと思います。

(佐賀県 南里副知事)

すみません、大曲副知事、先ほど手を挙げられていました。

(福岡県 大曲副知事)

福岡県の副知事の大曲でございます。いろいろ活発に意見が出ていて非常に素晴らしいと思ったのですが、佐賀の南里副知事からもお話があったように、パラスポーツは福岡県も取り組んではいるのですけれども、今ご提案があったものと加えて、ぜひボランティアさんたちの育成というか、そういうところにも力を入れていって、こういうことを広げていったらどうかというふうに思いまして、私のほうから1つお話をさせていただきたいと思います。

実は福岡県は車椅子テニスの国際テニスがありまして、これはもう三十何年続いているのですけれども、非常にボランティアで支えられています。約3,000人の方々のボランティアが参加して、もう地域で根付いているという大会なのです。そういう意味では、地域ごと、やはりボランティアをすることで自分たちがまた参加できるという、素晴らしい大会になっておりますので、そういったボランティアの育成とともに、あと、健常者が一緒にできる、例えばボッチャであるとか、障害のある方だけではなくて、一緒に、例えば子どもたちが参加できるような、両方一緒に参加できるようなところをつくると、皆さんの参加型のスポーツになるのではないかと思いましたので、お話をさせていただきました。

ありがとうございます。

(佐賀県 南里副知事)

ありがとうございます。ボランティア、我々は今回「サガンティア」という言い方をしましたけれども、やはり支えるという面も非常に大きいと思っています。ただ、支えるのが、いわゆるサブ的なものというよりも、参加の主体そのものであると思うのです。だから、そういったことも含めて、みんながいろいろな形で参加するというようなものができればいいのかなと、お伺いして思いました。

ミョン副知事さん、ありませんか。

(全羅南道 ミョン・チャンファン副知事)

ほかの副知事の皆さんがお話しされました基本原則、そして、この8県市道ですというのは、原則同意します。パラスポーツをするのか、各地域のスポーツ施設が、それが備

わっている所ですのかということ、今日、全て決めることはできませんので、大きな方向性だけを決めて、3月に実務者会議がありますので、そこでもう少し詳しく議論ができればと思います。様々な市道と一緒にできれば可能ですが、国際機構、国際基準なども分かりませんので、そういった部分も議論すればいいかと思います。以上です。

(佐賀県 南里副知事)

ありがとうございました。先ほどからいろいろご意見を頂きましたように、何か、8県市道で大きな1つの大会をするというイメージでは多分ないのかなと思います。それぞれのいろいろな、一緒にできるような種目などを1つのフックとして、何かの交流大会みたいなものができるのではないかと、パラもその1つではないかと思いました。この辺については、ぜひ実務者レベルのほうでまたいろいろ議論していただいて、持続できるような、新しいものがまた生まれてくれば素晴らしいと思っています。

ほかに何かございますか。よろしゅうございますか。それでは、一応、知事会議の本題としては、これで終了させていただきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

(司会)

長時間にわたる会議、お疲れさまでございました。

事務局から、このあとの流れについてご説明を申し上げます。これから、この場で記念撮影を行います。記念撮影が終わりましたら、副知事、副首長以外の実務者の皆様は、共同声明文検討のため、この会場を出て、「SHINZO」にお集まりください。また、副知事、副首長の皆様方におかれましては、それぞれの客室でご休憩いただくか、控室を用意しておりますので、そちらでご休憩をお願いします。写真撮影が終わりましたら、係の者がご案内いたします。

それでは、ただ今から、副知事、副首長の皆様方の撮影をいたします。係の者が誘導しますので、ステージ上にお並びください。

(5) 閉会

以上